

令和7年度第2回

平塚市文化財保護委員会 次第

日時：令和7年11月4日（火）

午前10時から

場所：平塚市役所 720会議室

平塚市文化財保護委員委嘱式

委嘱状の交付

あいさつ

平塚市文化財保護委員会 会議

1 委員長・副委員長選出

2 議事

（1）報告事項

平塚市内文化財の調査について（資料1）【公開】

市指定文化財公開について（資料2）【公開】

平塚市内の文化財について（資料3）【非公開】

（2）協議事項

旧横浜ゴム平塚製造所記念館移築に係る保管部材について（資料4）【非公開】

（3）審議事項

今後の文化財指定等について（資料5）【非公開】

（3）その他【公開】

以 上

公 開

平塚市文化財保護委員会 資料 1

令和 7 年度第 2 回文化財保護委員会

令和 7 年（2025 年）11 月 4 日

平塚市内文化財の調査について

1. 平塚市指定重要文化財の現況調査

【確認月日】2025 年（令和 7 年）8 月 11 日（月・祝）

【所 在 地】福田寺（平塚市入野^{いの}12）

【状況確認】中嶋課長代理、五十嵐主査（社会教育課）

【文 化 財】紙本墨画淡彩 十六羅漢図 双幅（平塚市指定重要文化財 平第 29 号）

紙本着色 十王図 双幅（平塚市指定重要文化財 平第 30 号）

【内 容】 お盆に合わせ掛軸を掛けるとの情報をいただき、現況の確認を行った。

いずれも表装・絵画に破れ・折れはなく、良好に保管されている状況を確認した。十王図は掛けた状態で、やや内側に反る。

併せて、未指定ではあるが東川斎桂山による板絵 2 面のうち 1 面を実見した。もう 1 面は日避けが施され実見できなかった。案内いただいた先代住職によれば、この板絵 2 面の他に扉 1 面に施された板絵も桂山の手によるものではないかとのことであった。



写真 1 紙本墨画淡彩 十六羅漢図



写真 2 紙本墨画淡彩 十六羅漢図



写真3 紙本着色 十王図



写真4 紙本着色 十王図



写真5 紙本着色 十王図



写真6 紙本墨画淡彩 十六羅漢図

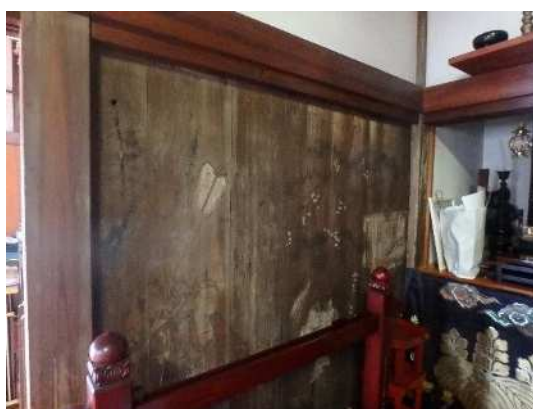


写真7 板絵



写真8 扉部

公 開

平塚市文化財保護委員会 資料 2

令和 7 年度第 2 回文化財保護委員会

令和 7 年（2025 年）11 月 4 日

令和7年度平塚市文化財特別公開「寺田縄日枝神社本殿」事業報告

内 容 令和6年11月20日付けで平塚市指定重要文化財に指定された寺田縄日枝神社本殿を広く一般に公開。普段は見ることのできない神社本殿を間近でご覧いただき、かつ専門家からの解説を聞くことで、文化財への関心を促し、親近感を醸成し、もって文化財保護への理解や認識を高めることを目的とし実施した。解説では、元平塚市文化財保護委員会委員で、平成元年・2年に実施した平塚市内寺社建築悉皆調査を担当いただいた清水擴先生（東京工芸大学名誉教授）に解説をしていただいた。

■開催概要■

日 時 令和7年10月4日（土）午前10時～午前11時（ガイドボランティア協会への説明）
午前11時～午後3時（自由見学）
うち午後1時30分～午後2時30分（清水先生による解説）

場 所 寺田縄日枝神社（平塚市寺田縄1180）

対 象 一般

主 催 寺田縄日枝神社、日枝神社氏子一同、平塚市教育委員会（社会教育課）

協 力 清水 擴 氏（東京工芸大学名誉教授）
吉田 鋼市 氏（横浜国立大学名誉教授）

参 加 者 ガイドボランティア協会：3名
見学者：85名
清水先生による解説の参加者（見学者と重複）：61名

■写 真■



解説（清水先生）



解説（清水先生）



見学の様子1



見学の様子2

■取 材■

事前：タウンニュース、当日：湘南ケーブルネットワーク、読売新聞社

平塚の神社

清水 擴

1. 平塚市内の神社の数と本殿の建立年代

- ・1989年に実施した神社の調査対象は24件(すべて江戸時代)
- ・『新編相模国風土記稿』によれば、村の戸数は真田村33戸、寺田縄村53戸、北金目村63戸、土屋村189戸など。50～100戸が多い
- ・江戸時代には村ごとに「鎮守社」+ α
- ・江戸時代中期以前は、一般に本殿の建築的質は低く、本殿の耐用年数は30～50年、その都度建て替え(造替)
- ・農村の経済的発展は17世紀後半頃から。米の品種改良、農機具の改善、換金作物の作付けなどによって、徐々に農村の経済力が向上し、住宅や神社社殿の質も向上に向かう
- ・平塚市内の最古の神社本殿は北金目神社(17世紀中期)、次いで小鍋島の八幡神社(17世紀後半)。年代の判明したものでは寺田縄の日枝神社(元禄5年ー1692)が最古
- ・多くは18世紀中期以降

2. 平塚市内の神社本殿の形式

- ・一間社流造(21棟)
- ・二間社流造(1棟)
- ・三間社流造(1棟、前鳥神社)
- ・一間社入母屋造(1棟、熊野神社・土屋)
- ・春日造(1棟、北金目神社)

3. 本殿の規模

- ・一間社流造の最大は岡崎神社(桁行7尺、18世紀前半)、平均桁行4. 7尺
- ・三間社流造の前鳥神社は桁行16尺

4. 神社本殿の普遍的形式

- ①流造 : 神社本殿の最も一般的な形式。切妻・平入・高床・縁高欄。正面に向拝を葺きおろす
 ・一間社流造: 地方の一般神社の本殿。全国的にみて最も多い
 ・三間社流造: 大規模。格式の高い神社の本殿
- ②春日造 : 春日大社本殿(奈良)の形式。全国の春日大社系列の神社に多い(関西に多いが、関東にはごくわずか)。流造に次いで多い形式。切妻・妻入・高床。正面に向拝を付ける

5. 寺田縄の日枝神社本殿

- ・寺田縄村の鎮守、旧称山王社
- ・一間社流造 元禄5年(1692)の建立 桁行4尺
- ・大工は馬渡村の森伊兵衛
- ・小ぶりで簡素だが、均整のとれた美しい社殿

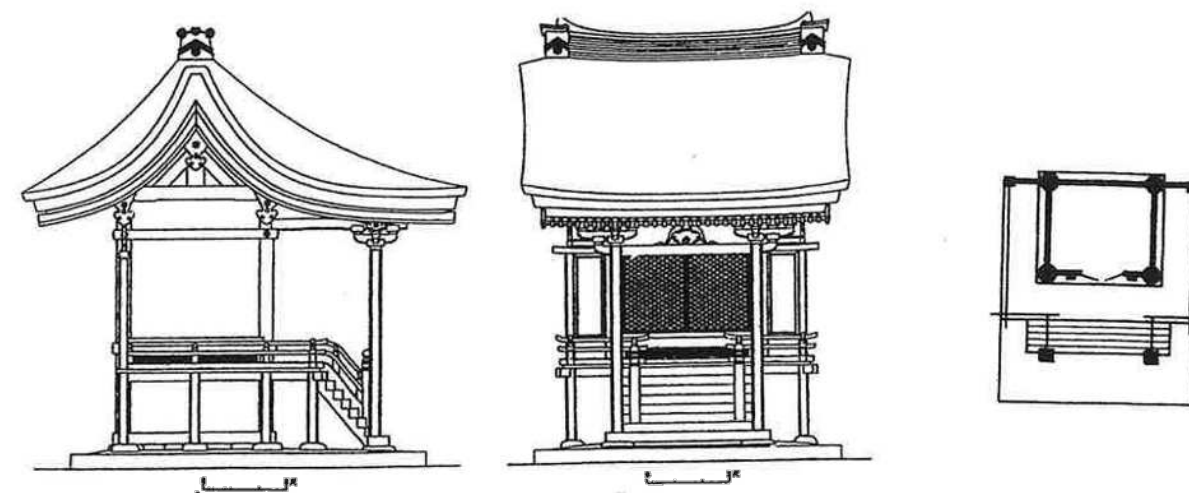


図1 一間社流造の社殿

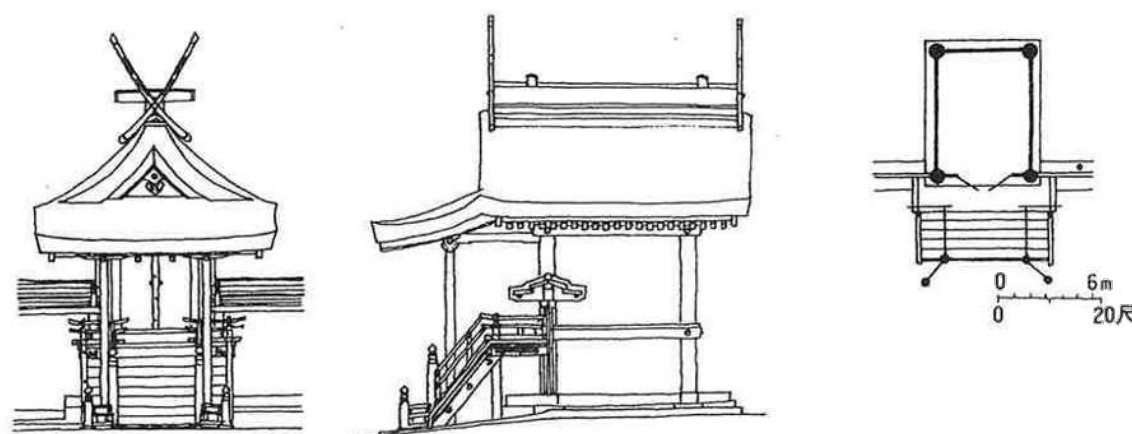


図2 春日造の社殿

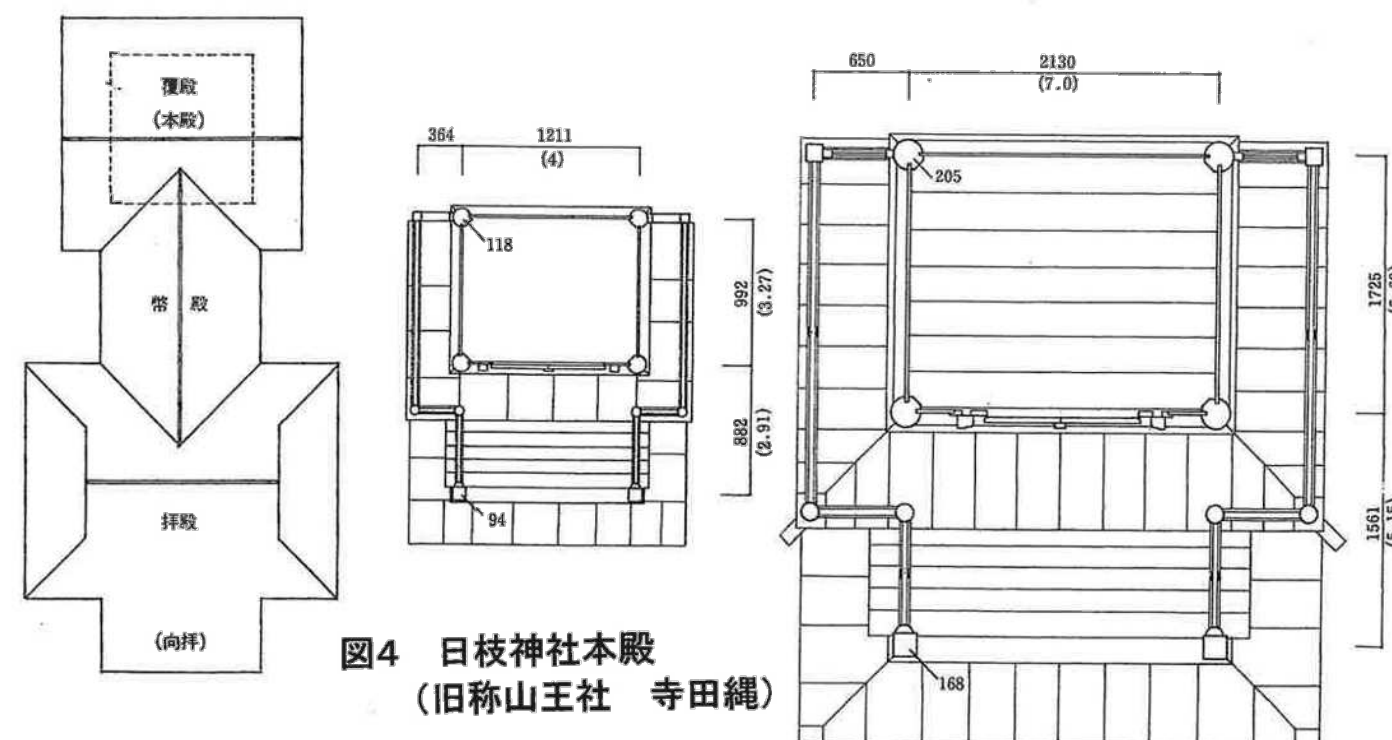


図4 日枝神社本殿
(旧称山王社 寺田縄)

図3 社殿の構成

図5 北金目神社(旧称熊野社)